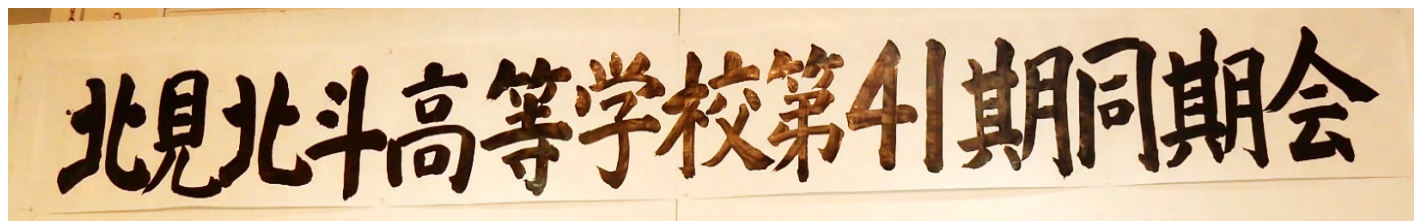


北見北斗高等学校第41期同期会



書：西田（加藤）さん

平成28年10月14日、ホテル黒部（北見）にて北見北斗高等学校第41期同期会が開催されました。

対象人数は437名、当日出席表明していた方は、101名でした。

司会者による開会宣言。司会は1組幹事の岡田君。

続いて、物故者追悼に30秒間の黙祷。確認できている方は47名です。ご冥福をお祈りいたします。

主催者として、同期会代表幹事の4組中山君が挨拶。本学の同窓会活動のなか、各組でのクラス会の情報を得て、本年春にて我々41期生は、卒後50年を迎えたことから、発起人たる3組小池君とともに同期会開催を企画、各クラスに呼びかけ、幹事団を結成して、約半年の準備をしてきたとのこと、幹事各位にはご苦勞感謝いたします。

発起人3組小池君による乾杯の音頭で宴のスタート。盛り上がりが足りないと思われるグループには、幹事団から福井君を派遣するから申し出てくれと、乾杯挨拶。本同期会への並々ならぬ意気込みを感じます。



司会：岡田君



代表幹事：中山君



乾杯：小池君



乾杯風景

以下歓談風景





各クラス毎に集合写真を撮りました。以下は横撮り（横取り）写真が主で、あまり良い出来栄ではありませんが。



1 組



2 組



3 組



4 組



5 組



6 組

代表幹事の中山君の挨拶で語られた思いでは、本会初めてで最後の催しかもしれないが、若き日の思い出といままでの人生を楽しく語らうの意向でした。

東京の同期会の幹事長の樋崎（塚本）さんは同期で歌った歌を余興として披露することを企画し、本会の幹事団と接触するとともに、プロデュースを小櫻君に、対応できるように練習することを、三幸トリオ（秀幸、政幸、宏幸）に指令しました。選択した曲は、3曲です。2曲は3人で、1曲は松浦君の独唱です。いずれも小櫻君の作曲で、北見に育ち、巣立った我々の胸に思いを馳せる歌です。

カラオケのある「北見のひとよ」は3人が歌った後、歌える方達ともう一度合唱しました。

「オホーツクブルーの仁頃のあおい空」、
「ハッカを匂わす愛の園」
の歌詞、秋のこの季節、今では仁頃のハッカ公園の蒸留館でしか見られなくなりましたが、ハッカ蒸窯からのぼる白い煙が各集落で見られたものです。ハッカ蒸は秋のイベントでした。徹夜で火と水の番をしなければなりません。乾燥したハッカを荷馬車に満載して運ぶのに便乗し、ハッカ蒸小屋についていったウキウキ心を思い出します。

「君の住む町 ふるさと恋しくて」の思い出で出かけて来て、「別れ切ない 中之島公園」の思い出を囁きあった方はいたでしょうか。

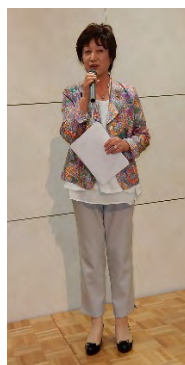
宴もたけなわ、応援団員の登場です。その指揮で、旧校歌の大合唱です。卒業後50年も経ているのにみんなきちんと歌えるものです。



7組



8組



余興開始を宣する
樋崎さん



三幸トリオ
(西端、松浦、吉村)



「北見のひとよ」を歌う



校歌合唱を指揮する

司会者から、「話したいことがある人はどうぞ」の声がかかりました。

登壇したのは、菅野（関）さん。農業を営む愛する家族と山形県長井市に在住、北見までは10時間以上要するとのこと。自分は、教師として子供を愛し情熱をもって教育に従事してきたことを力説しました。今もってその情熱を継続して日常行動に当たっていることに敬服です。

さらに、「小学校からずっと同級生は集合」の声。集まって、自分達でワイワイだったような気がします。



北見まで10時間以上です
菅野さん



ずっと同級生？

「予定時間を30分も超過しました。」司会者が閉会の辞を求めました。

閉会の辞は、東京とどの実会監事長の1組吉村君です。関東一本締めとする、と宣言しました。

楽しかった時間は終了でお開きです。

クラス仲間同し、気の合う同し、それぞれに北見の街に流れていきました。

夜空には、十四夜の月、しばれる夜がしんと更けていきます。



閉会の辞：吉村君



閉会の辞を聴く神妙な顔



北見の街を照らす十四夜の月